

ERIC 新年度に向けて

季節の移り変わりとともに、ERICも新しい人が加わりました。新体制のもとで今年度も国際理解教育の指導者育成を目指して活動していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局長

角田尚子

総務

会計 飯塚良子
鈴木善一郎

研修部

出版部
指導者育成プログラム提供

研究部

受託研修コーディネーター
猿田由貴江

トータルコーディネーター
木野美穂

資料室担当
廣島伸道

アシスタント

直井晴雄 IT・広報担当
新居愛子 レッスンバンク

書籍販売

アシスタント1名

<新しいスタッフから一言>

猿田 活動を通して様々なものを吸収、実現していきたいと思っています。

直井 自分のまわりの？に注目して、深く考えてみたいと思います。

新居 平凡でも、真面目に裏表なくやっついこうと思っています。

廣島 みなさんの研究に役立つ資料室作りを目指していきたいと思っています。

*4年間にわたって、研修部のトータルコーディネーター担っていた加藤千尋は、かねてより請われていた郷里において教職につくことになりました。永い間ありがとうございました。

学校を分析する～主催研修 TEST教育力向上講座より～ (Teacher's Effective Skills Training)

この研修では、現在の学校教育について、さまざまな視点から分析した上で、子どもたちに共通して育てたい力をつけるための総合学習カリキュラムをつくることを目的とした研修です。

教育力向上講座も、今年で3年目。小、中、高、大学の教員、学生、国際交流協会職員など多様な集まりになりました。

この報告では、学校の現状の分析を行ったセッションの成果をまとめてお知らせします。

分類	ねらい	アクティビティ
天の巻 (教育に求められるものを知る)	ミッション	ミッションステートメント
	過去の共有	子ども、学校、社会の30年間の変化とパターン分析
	ステイクホルダー分析	学校によって影響を受けている人は誰か
地の巻 (いま与えられている現状を知る)	教育の担い手	地域人材のネットワーク地図
	親の教育期待	親の学校への期待ランキング
	子どもの現状と変化	子どもの今、昔 対比表
人の巻 (自分たちがしていることを知る)	学校の持っている長所	SWOT分析
	これまでやってきたことの効果	達成度分析
	配分について考える	四季暦と生活時間分析
	意思決定はどこに	意志決定時における力関係図
秘伝の巻 (視点の転換)	ヒドン・カリキュラムの分析	トランセクト
	発想の転換	力の分析

・天の巻(教育に求められるものを知る)

◇ミッションステートメント

学校のかかっている使命は、当然人間を育てることである。しかしどのような人間に育てるのか—その視点を検討した。その結果は、右の通り。

個人としては、自主自立を目指して、競争の中で勉強を努力しながらも、友愛や調和という社会性を同時に身につけさせようとしていると分析される。やはり学校は、二宮金次郎を目指していたのだろうか？

- ・ 自主自立
- ・ 強い精神／忍耐／努力
- ・ 勉強に向かう
- ・ 二宮金次郎（清貧の思想）
- ・ 創造
- ・ 友愛
- ・ 競争
- ・ 調和

子ども、学校、社会の30年間の変化とパターン分析
社会が成長というレールにのってればみんな幸福になれると考えていた。その幸福の押しつけに反発する若いエネルギーがあった。

現在は、普通の子がキレる。社会性を放棄する。これは、社会に成長=幸福という絶対的な安心感がなくなっており、変化と自分の能力が試されるため神経が疲れ、癒しを求めているのでは？

	子ども	学校	社会
30年前	長ラン バイク 塾	校内暴力 企業戦士 知識偏重	高度成長 立直り 学歴社会
現在	キレる 不登校 親子関係 希薄	心の教育 サポート校 カウンセ ラー	不景気 社会構造 の変化 能力主義

・地の巻(いま与えられている現状を知る)

◇地域リソースのネットワーク地図

例えば、生態系の3原則、多様性、有限性、循環性をいった概念を伝えるためにはどのリソースを活用して授業を展開できるのだろうか？

地域リソースはある。しかしそれを活用するプログラムがないのではないだろうか？

人 → 学者、幼稚園、高齢者、経験者、NGO、外国人、地域の人

施設 → 企業、博物館、美術館、スポーツクラブ、図書館、役所、ゴミ焼却所、リサイクル施設、浄水所

自然 → 森林、川、海、山

◇親の学校への期待ランキング

左のランキングが親の期待である。30年間の変化とパターンに依るように、関係が築けない親、社会の能力主義の影響を受けて、生活指導も学力指導も、個人に応じた指導を求めている。

本来、学校は集団生活を営む中で、個性も伸びまた社会性も育つと考えられていたはずだが、親の、社会の要求に学校はその方針を見失っているようである。

- 1 わが子の面倒を見てほしい
(個に応じた指導)
- 1 教科内容の習得
- 2 魅力ある学校、学級にして不登校にならないように
- 2 いじめをうまないように
- 3 教師の資質の向上
- 3 具体的な進路指導

・人の巻(自分たちがしていることを知る)

◇四季暦と生活時間分析

学校は地域社会の縮図だと考えられる。塾ではこうはならない。このようなことを行うことの評価をきちんとするべきであろう。これだけのエネルギーを欠けて何の力を子どもたちは身につけているのだろうか？

	4月~~~~~8月~~~~~12月~~~~~3月
行事	入学式 修学旅行 部活大会 体育祭 定期テスト 卒業式
ねらい	文化祭 エネルギー発散 振り返り
	社会性 計画づくり 燃える、熱中 ライバル意識/創造性 感動、涙 協働生活

* TESTの詳細はレッスンバンクに収録する予定です。

学びを高めるために

2000年度、都立高校2年生を対象にした国際理解教育の授業実践の中で得られた手だてや課題を中心に紹介します。

・クラス編成

高校2年生6クラスの生徒が合同選択する教科は、仲間づくりがポイント。知っている人同士だけが親しくなる傾向にあるため、それ以外の人とのグループ作業の協力はともすれば難しくなる。グループ編成をどんどん変えて、協力学習の時間を取り入れる工夫を行った。毎回10分～15分取り入れてもよいくらい。それだけ意識して取り組まなければ、他の人と親しくなる気持ちになれないし、関係をつくること自体が面倒くさいとも考えられる。

- *レッスンバンクNO.6にグループづくりのための手法を紹介した教材があります。
- ・アイスブレイキングの活動事例
- ・グループ・エネジャイザーの活動事例

・教室環境

合同選択授業は、当初会議室であった。重くて長い机、人数の割りに大きな部屋。子どもたちが座る席と黒板との距離、まわりには雑多なものが散乱している状態の中で集中をすることは確かに難しかった。

- *テーマワークに「教室の環境は？」のチェックリストがあります。参考にしてください。

途中から音楽室に変更した結果、子どもたちとの距離は縮まった。しかし黒板は使えず、模造紙なども掲示できにくい環境はマイナス面の方が大きかった。

・3人体制での取り組み

ERICが年間を通して授業を請け負うことは初めての試みであったために、チームで取り組んだ。グループ作業の時にさまざまな支援ができたことがよかった反面、支援内容が共通していなかったり、チーム内での合意に時間を要したことはデメリットでもある。

・アクティビティから学ぶ/ゲストスピーカーから話を聞く

貿易ゲーム、豊かさってなに？（地球家族）、海外からの食べ物（バナナの場合）など素材があり、またふりかえりの視点の明確なものは、学びの中に集中を生み出す。

- *竹台高校の取り組みの詳細はレッスンバンクに収録されています。

また、実際に現地で活動した人の話は印象的であったようだ。その事前、事後学習と合わせた形で進められたことはよかった。

・調べ学習

3点確認法による調べ学習の進め方は、学びがあった。しかし、国際理解教育における調べ学習となっていたかは疑問がのこる結果となった。

・集中のための手だて

授業は、まとまった時間の中で集中、分析、発見をしたり、発見した原則が身につくようにスキルトレーニングする場である。

右には、集中のための原則を掲載した。ERICの『ワールド・スタディーズ』の中にも活発な話し合いのためのヒントが9つある。

集中の7つの原則

- 1、具体的にな数字・時間を使う
- 2、クイズ・ゲーム的要素
- 3、見せる・聴かせる・やらせる・さわらせる
- 4、みがきあいの要素
- 5、なぜ・疑問・秘密を持たせる
- 6、実物・実演・実技・実験・観察
- 7、目標・評価・達成感を明確に

(出典：集中の授業づくり-原則の技術)

活発な話し合いのヒント

- ・何が手にとれるものを
- ・課題は明確に
- ・少人数で
- ・議論の余地があるものを
- ・力を合わせて
- ・視覚にうったえるものを
- ・ならべて、くらべて、えらんで、まとめて
- ・体験してから考える
- ・難しすぎず、やさしすぎず

(出典：ワールド・スタディーズ)

このような原則やヒントを具体的な活動として紹介しているのが「未来を学ぼう」です。

以下にいくつかの活動名をあげておきます。

ぜひ、参考にしてください。

聴く力を育てる活動	コミュニティ意識を高める活動	目的意識と行動する力をつける活動
○魔法のマイク	○サークルタイム	○ここから一緒に始めよう
○クリエイティブ・リスニング	○未来の学校を訪ねて	○集めよう、伝えよう
○3枚のもち札	○今日の世界は	○あなたにとってできる援助とは？
○アクティブ・リスニング	○あなたのコミュニティ	○やれる、できる、がんばる
○大切にす聴き方	○ある日の学校	○未来を築くインタビュー
○南の国から	○わたしたちだけで生きるとすれば	○理想のメニュー
○お気に入りの場所	○提言する	○未来からの手紙

2001年度 主催研修のお知らせ

ERICの主催研修は、以下のように1年を通じて研修に参加することにより、ERICのこれまでの学びが系統的に学べるように構成されています。みなさんの参加を心よりお待ちしております。

STEP 1

「気づき」のアクティビティによって人類共通の課題にせまる

1. わたしから始まる国際理解

国際理解教育で扱いたい概念と参加型アクティビティを中心に学ぶことができる。

日 程：6/23 (土) -24 (日) 2日間 6セッション
場 所：ERIC国際理解教育センター 4F、5F
テキスト：『ワールド・スタディーズ』
『フード・ファーストカリキュラム』

2. 「木と学ぼう (PLT)」ファシリテーター養成講座

木を通して環境教育を行うことができる。アクティビティの構造やプログラムの作り方など実践力が身につく。

日 程：8/25 (土) -26 (日) 2日間 6セッション
場 所：ERIC国際理解教育センター 4F、5F
テキスト：『木と学ぼう』
『環境教育指導者育成マニュアル』

STEP 2

人間関係のスキルトレーニングによって、課題解決のための基礎的な力を身につける

3. 「対立から学ぼう」カリキュラムと教え方セミナー

対立は悪くないというメッセージとともに対立を扱うための10のコンセプトを教材にカリキュラムとして子供達へ教えることができる。

日 程：9/15日 (土) -16 (日) 2日間 6セッション
場 所：ERIC国際理解教育センター 4F、5F
テキスト：『対立から学ぼう』
『対立は悪くない』

4. 人権教育ファシリテーター養成講座

被差別者への共感的な理解や差別構造の分析などを扱った上で、差別を尊重することを目指す。

日 程：11/23 (金祝) -24 (土) 2日間 6セッション
場 所：ERIC国際理解教育センター 4F、5F
テキスト：『人権教育ファシリテーター・ハンドブック』

STEP 3

「築き」のための参加型手法によって社会への変化のプロセスをつくる

5.M.E.E.T.ザ ワールド 海外ボランティア養成プログラム

国際協力やボランティアについて学ぶ。地域調査の基本的な方法についてのトレーニングもできる。またNPOの運営のあり方についても触れる。

日 程：1/12（土）-14（月祝）3日間 9セッション

場 所：ERIC国際理解教育センター 4F、5F

テキスト：『12のものの見方・考え方』

『地球家族フォトランゲージ版』

『NPO運営マニュアル』（3つの中から2つを選択）

6.TEST教育力向上講座

学校の現状分析とカリキュラムづくりを目的に行う。12のものの見方・考え方によって考えることができ、またカリキュラムを参加型によってできるようになる。

日 程：3/23（土）-25（月）3日間 9セッション

場 所：ERIC国際理解教育センター 4F、5F

テキスト：『未来を学ぼう』

『テーマワーク』

『12のものの見方・考え方』（3つの中から2つを選択）

☆ジェンダー／GAP研修はご要望に応じて実施を計画して行きます。

☆各研修とも15名が定員となります。お早めにお申し込みください。

（参加費：2日間=¥25000、3日間=¥35000 参加費には研修費とテキスト代が含まれます。）

お申し込みには、下記のお申し込み用紙をFAXまたはE-mailにてご送付下さい。

折り返し確認のご連絡をいたします。

申し込み用紙

氏名

住所

電話/FAX

E-mail

所属

テキストの有無

参加費振り込み

（ 1 持参、2 購入）

（ 1 済み、2 予定日 / ）

<新刊のご案内>

わたしとあなたとみんなのできるワークシート

~自尊・他尊・共尊の人間関係づくり~

レッスンバンクで好評だった「わたしからはじまるコミュニケーション」に新しい視点を加え、34アクティビティを厳選して、コンパクトに収めました。人間関係のトレーニングカリキュラムとして授業の中でも、宿題としても活用できます。

製本版 A4 40ページ 税込み価格：787円

(学級単位などでの購入の際はご相談ください。)

これまで第三世代を御愛読いただきありがとうございました。第四世代として一新してお届けすることになります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

■ERIC通信 定期購読のお知らせ

ERIC主催研修に参加および書籍を購入された方には、1年間無料でお送りします。それ以降の購読継続をご希望の場合、年間¥1000の購読料を下記の郵便振替口座にお振込みください。また、ご紹介・お問い合わせいただいた方には、最新号を無料でお送りいたします。購読を継続される場合は、年間¥1000を郵便振替口座にお振込みください。

■ERIC事務所では第3金曜日午後6:00~8:00 ERIC事務所にて運営会議を行っています。運営会議は開かれた会議を目指しており、現在、教育活動やNGO活動でお困りの方、ERICにご興味のある方、参加型手法を使って課題を解決したい方などなたでも参加できます。お近くに来られた際などぜひお立ち寄りください。みなさまの参加をお待ちしております。

■事務所 活動時間

月、火、木、金曜日 午前10:00~午後6:00です。事務所にご来訪の際はご一報いただくと幸いです。

■資料室利用のご案内

ERIC資料室には、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアなどの英文文献1000点以上、人権、環境に関する日本語文献が800点以上あります。みなさまの研究の一助としてご利用ください。

利用料金：入室料¥500 (コーヒー付)

■ERICスタッフ募集

ERIC事務局では、スタッフ、インターン、アルバイト、ボランティア、ファシリテーター、書籍販売のプロモーションと様々な形でERICに関わってくださる方を募集しております。ERICとともに21世紀の教育をつくっていきませんか？ご関心のある方はお気軽にお問い合わせください。

■ERIC ホームページ&Eメール アドレスをご利用ください

ホームページ <http://www.try-net.or.jp/~eric-net/>

Eメール eric-net@try-net.or.jp

■書籍購入・研修参加 (ERIC通信購読料) 費用は下記の口座に振込をお願いします。

書籍専用 郵便振替 00160-3-547794 口座名称 ERIC

研修参加費・ERIC通信購読料

郵便振替 00180-5-710744 口座名称 ERIC事務局